

# 西大寺金堂院の復元

都城発掘調査部飛鳥・藤原地区遺構研究室長 鈴木智大

2013 年度におこなった平城第 505・521 次調査では、薬師金堂と弥勒金堂を取り囲む回廊のうち、西面回廊および東面回廊を発見し、金堂院の東西規模が判明した。宝亀 11 年（780）成立の『西大寺資財流記帳』には両金堂の規模や特徴とともに、金堂を取り囲む回廊の全長が記されている。周辺の地形を考えあわせると、南北規模も推定できる。市街地に眠る西大寺金堂院を復元する。

## 1 『西大寺資財流記帳』

1172 尺、東西各軒廊。多彩な建築装飾。

## 2 西大寺金堂院西面回廊の調査 一第 505 次調査

西面回廊／薬師金堂西軒廊

## 3 西大寺金堂院東面回廊の調査 一第 521 次調査

東面回廊

## 4 西大寺金堂院の復元

総長（資財帳）一東西規模（第 505 次調査-第 521 次調査）=南北規模

弥勒金堂と中門

幢幡遺構（掘立柱 SX1150） 一第 597 次調査

## 5 西大寺伽藍の復元

### 主要参考文献

大岡實「西大寺」『南都七大寺の研究』中央公論美術出版、1966 年。

太田博太郎「西大寺の歴史」『奈良六大寺大観 第 14 巻 西大寺 全』岩波書店、1973 年。

『平城京復原模型記録』奈良市、1978 年。

宮本長二郎「奈良時代における大安寺・西大寺の造営」『日本古寺美術全集 第 6 巻 西大寺と奈良の古寺』小学館、1983 年。

『西大寺古絵図は語る一古代・中世の奈良一』奈良国立博物館、2002 年。

佐藤信 編『西大寺古絵図の世界』東京大学出版社、2005 年。

大林潤「西大寺伽藍の造営計画に関する研究」『文化財論叢Ⅳ』2012 年。

史料 「西大寺資材流記帳」金堂院関連抜粹（底本は西大寺蔵写本。『西大寺古絵図の世界』による。◇は割注。《》は筆者注。）

「縁起坊地第一

夫西大寺者 平城宮御宇

寶字稱德孝謙皇帝、去天平寶字八年九月十一日誓願、將敬造七尺金銅四王像、兼建彼寺关〔矣〕、乃以天平神護元年、創鑄件像、以開伽藍也、居地參拾壹町、在右京一條三四坊、東限佐貴路、〔除東北角喪儀寮〕、南限一條南路、西限京極路、〔除山陵八町〕、北限京極路、

堂塔房舍第二

金堂院

藥師金堂一字〔長十一丈九尺、廣五丈三尺〕、

盖上東西金銅沓形、各重立金堂鳳形、各咋銅鐸、盖上中間金堂火炎一基、中在金堂茄形、居銅蓮花形、令持金堂師子形二頭、一踏金銅雲形、又宇上周廻火炎卅六枚、並在銅〔銅〕瓦形、角隄瓦端銅華形八枚、桶《桷》端金銅花形卅六枚、各着鈴鐸等、又四角各懸鐸、堂扇《扉》并長押、在金銅鋪肱金等、

弥勒金堂一基〔二重長廿《十》丈六尺、廣六丈八尺〕、

盖東西隄瓦端、各在銅鑄枚金、又兩端金銅龍舌十枚、桶《桷》端各着金銅葛形、又角各銅鐸、堂扇《扉》并長押、在金銅鋪肱金等、

雙廊一周〔二百十七丈二尺、東西各軒廊〕、

中門一字〔長七丈八尺、廣三丈〕、

東西脇門二字〔各長二丈、廣二丈八尺五寸〕、

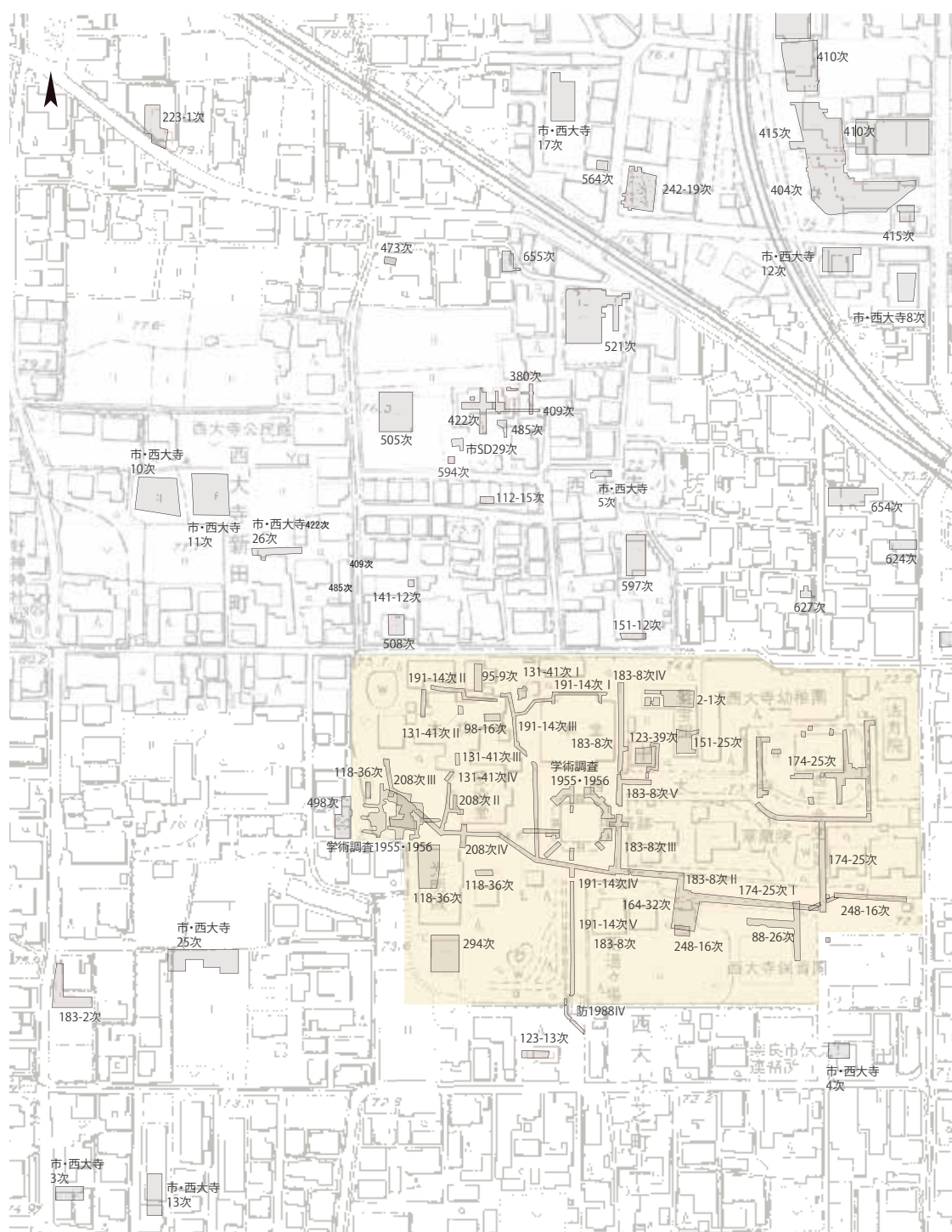
中大門一基〔二重、長九丈、廣三丈七尺〕、在金鐸八口、

東西樓門二基〔各長二丈六尺、廣二丈〕、

塔二基〔五重、各高十五丈〕、

幢六株〔二株、无鳳形〕、

在金銅鳳型四翼〔二破〕、牡柱並金銅頭、



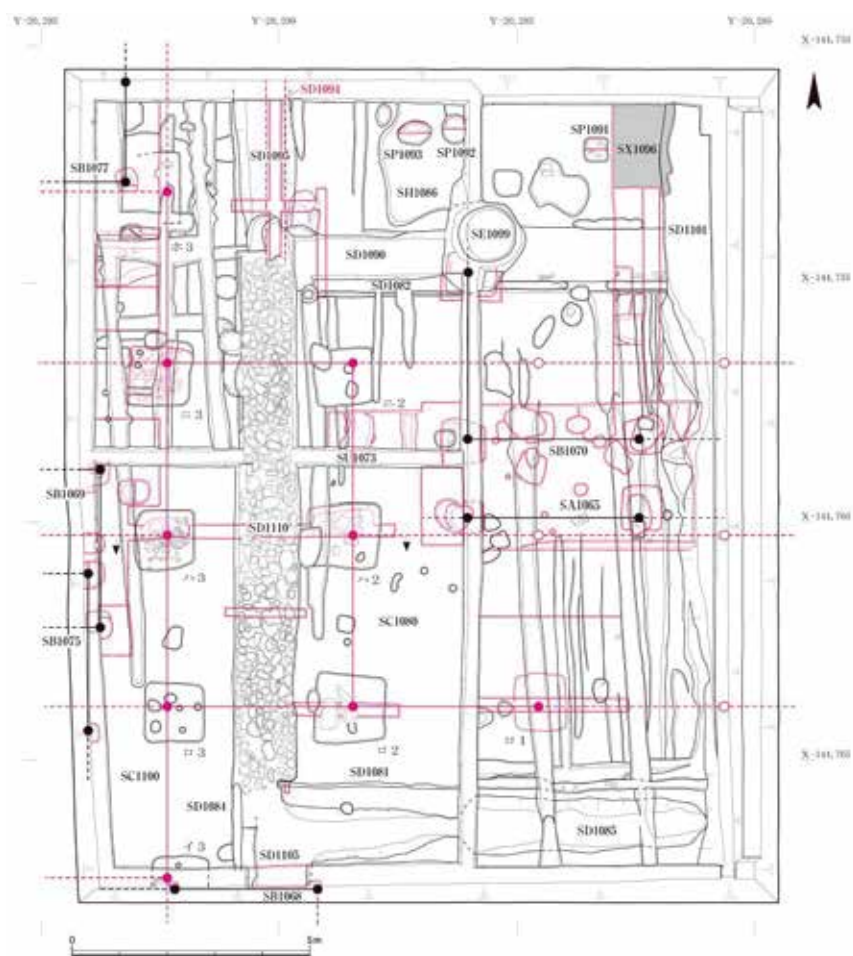


図2 平城第505次調査遺構図  
(『紀要2014』所収)



図3 平城第505次調査区全景  
(西から)



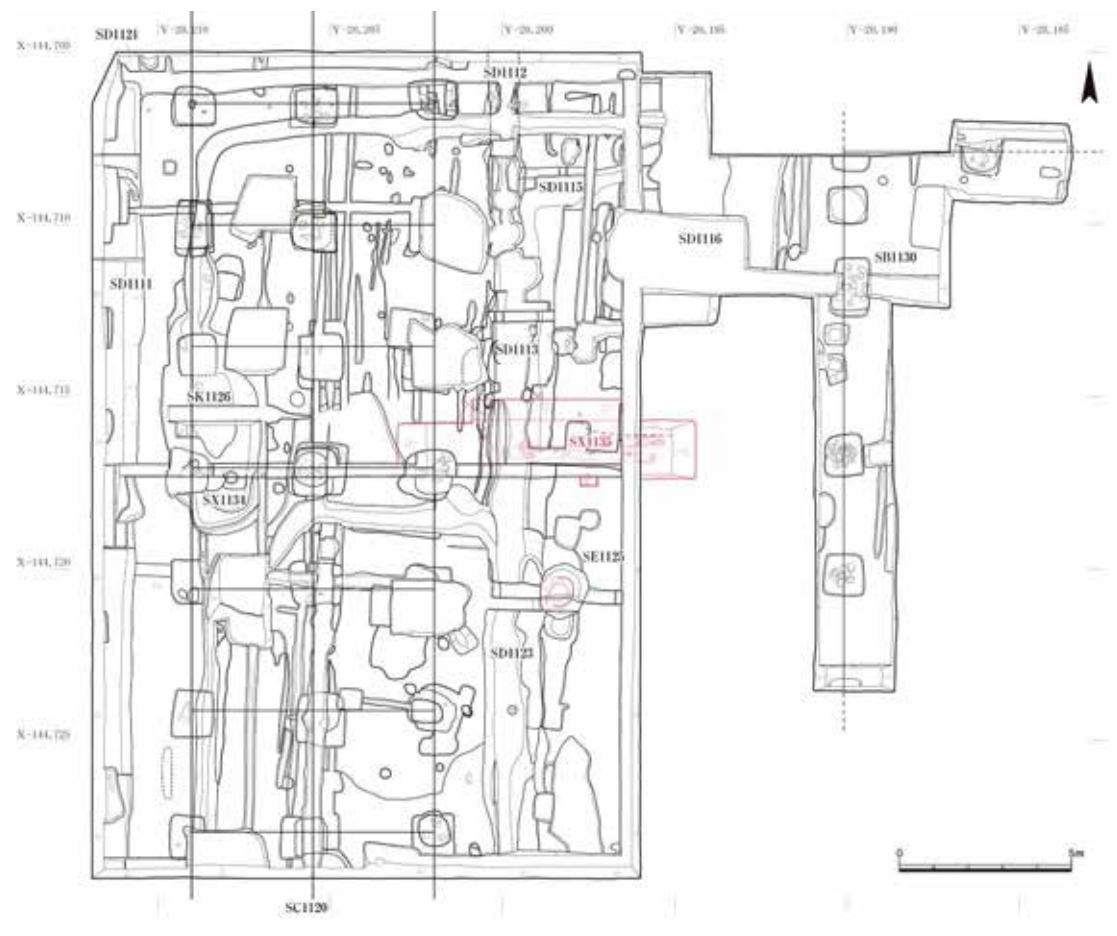


図4 平城第 521 次調査遺構図（『紀要 2014』所収）



図5 平城第 521 次調査区全景（北東から）

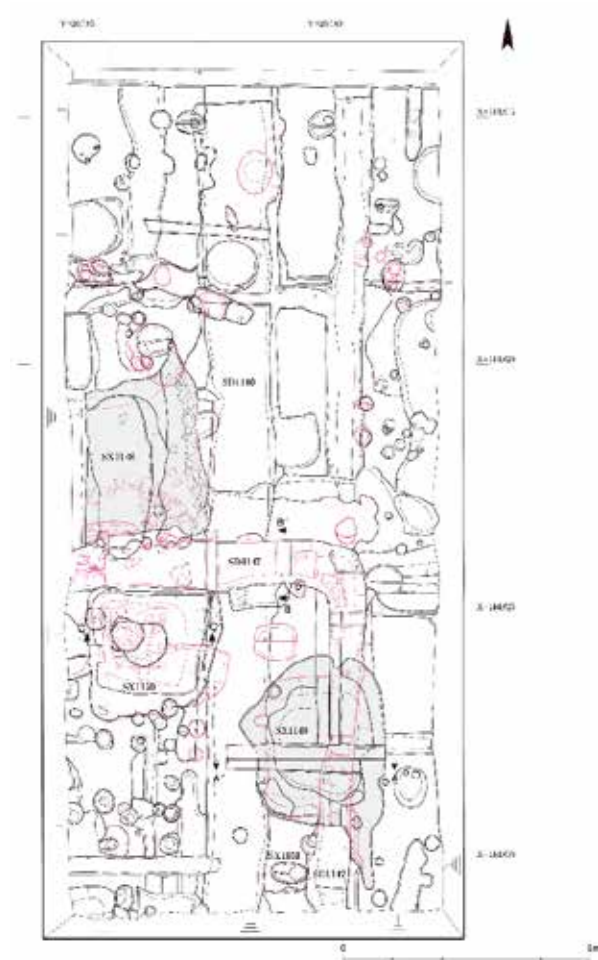


図6 平城第597次調査遺構図  
(『紀要2019』所収)

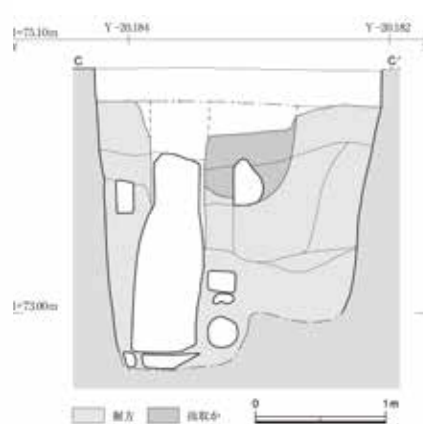


図7 掘立柱 SX1150 断面図



図8 掘立柱 SX1150 出土状況

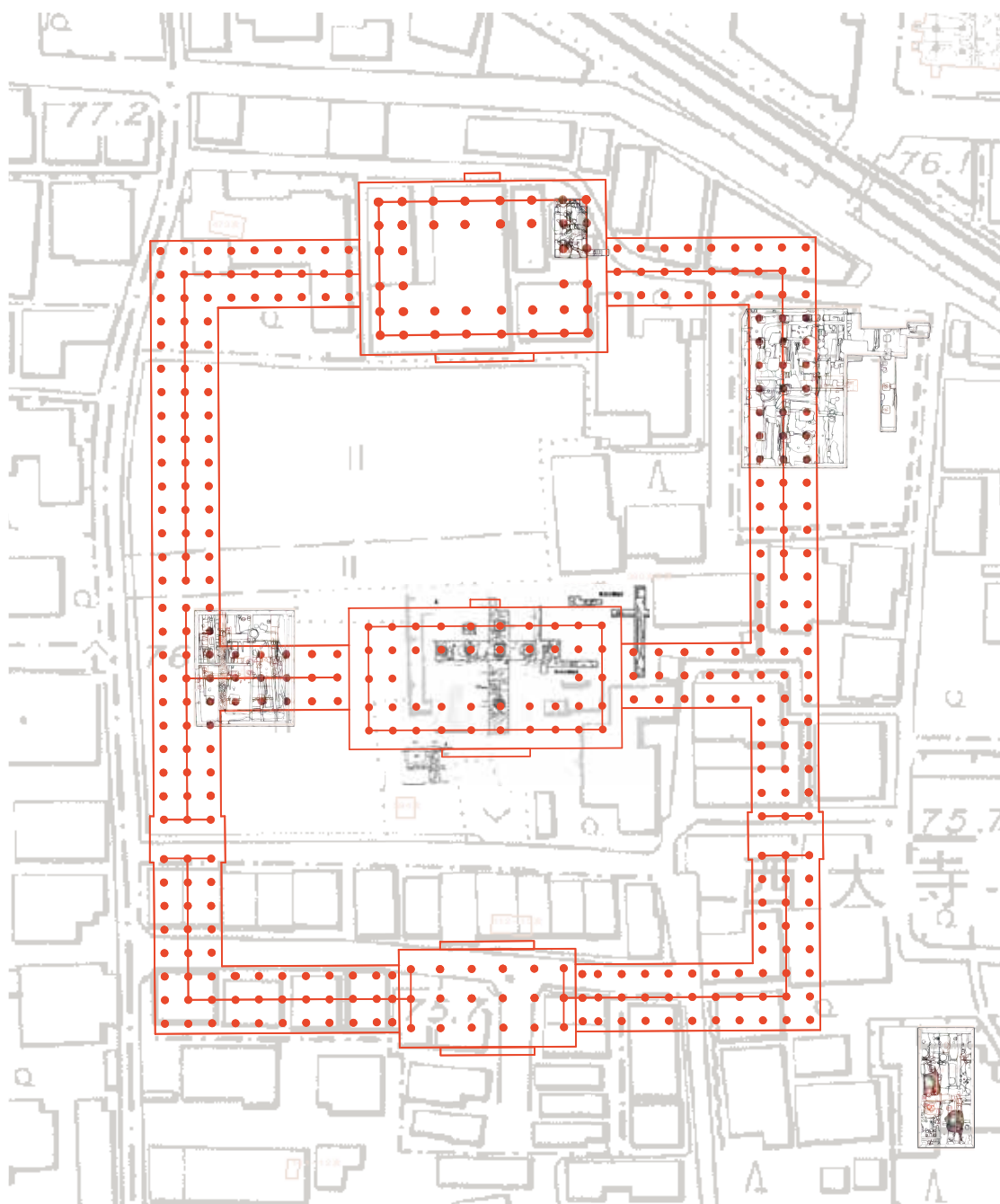


图9 西大寺金堂院復元模式図

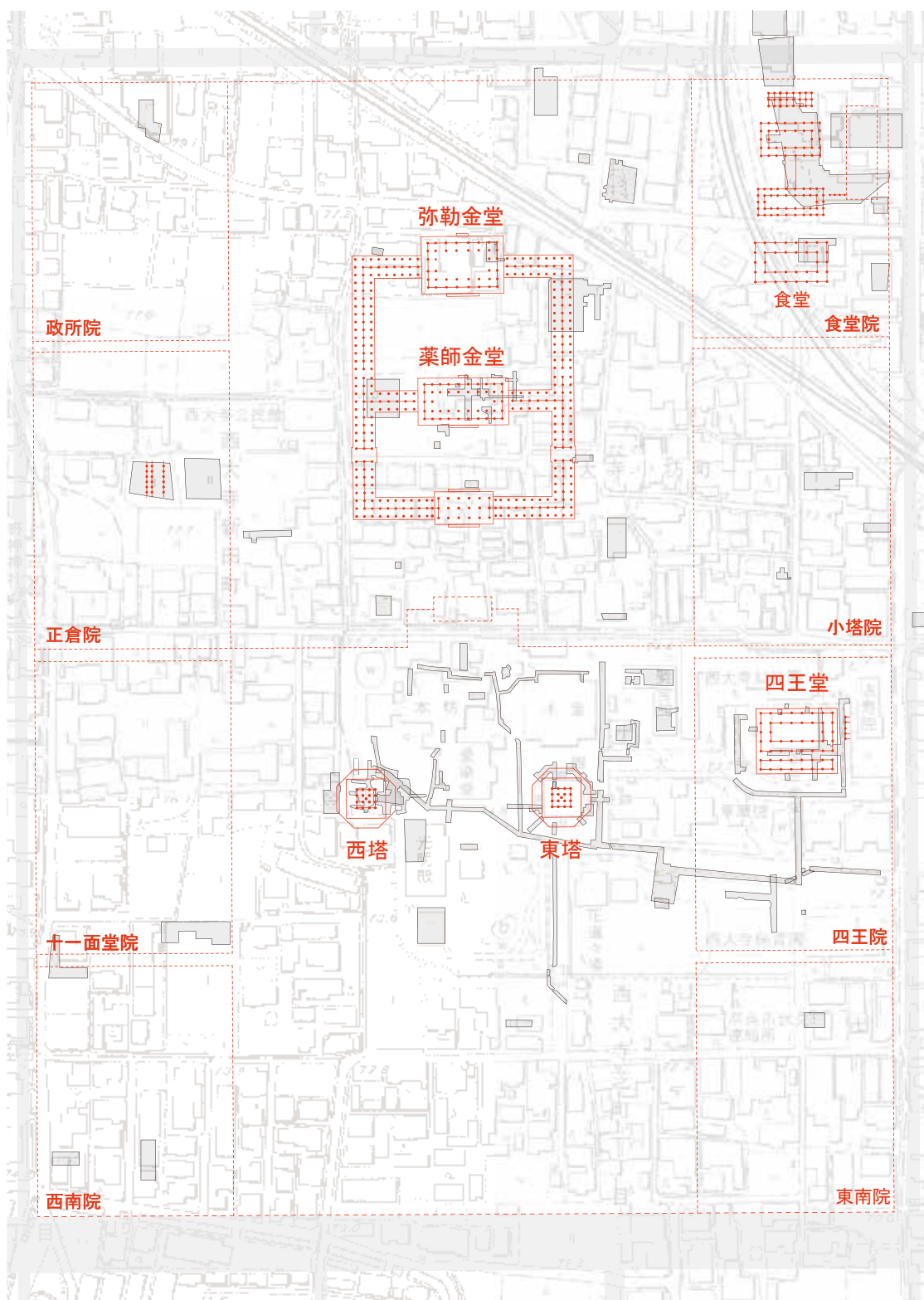


图 10 西大寺伽藍復元模式图